

## かきの摘らい時期の作業について

令和2年5月1日

佐渡農業普及指導センター

### 1 生育の推移

冬期間の気温が高く、3月も引き続き高く推移し、芽の伸び始める発芽期は平年より10日程度早まったが、その後は気温が低く推移し、展葉期は平年より4日早まる程度に遅れた。(平核無) 今後の生育は気温の状況で前後するので注意する。

表1 生育状況

平核無	年次	生態					刀根早生	年次	生態				
		発芽期	展葉期	伸長 停止 期	開花始	開花盛			発芽期	展葉期	伸長 停止 期	開花始	開花盛
3園地平均	本年	3月29日	4月19日				3園地平均値	本年	3月27日	4月16日			
	前年	4月05日	4月21日	5月18日	5月28日	5月31日		前年	4月04日	4月21日	5月17日	5月26日	5月29日
	平年	4月08日	4月23日	5月17日	6月02日	6月05日		平年	4月07日	4月22日	5月16日	6月01日	6月04日
	前年比(差)	-7	-2					前年比(差)	-8	-5			
	平年比(差)	-10	-4					平年比(差)	-11	-6			

### 2 かきの摘らい作業

摘らいは素手でできるため能率がよく、その後の生育期間が長いいため大きな肥大促進効果が期待できる。また、生理落果の低減にもつながる。

開花の2週間前程度からが作業が始まるが、開花前に一通り終わらせるよう作業計画を立て、なるべく早く取り組みましょう。

#### (1) 摘らい作業の実際

① 1本の枝に蕾を一つ残す。

② 残すつぼみ(へたの大きさを見る)

ア 形の正常なもの

へたが4つで大きさの揃っているもの。

イ 残すつぼみの向き

下向きから横向きのものを残す。

上向きのつぼみは日焼けしやすい。

横向きであれば肥大に伴い下を向く。

取り除くつぼみ(へたが3つ)

ウ 残す位置(大きくなりやすい位置の果実を残します)

果実の太る順序 真ん中のつぼみ>枝先のつぼみ>元のつぼみ

・元の果実:最初は大きいですが、後半の肥大が悪く、枝や果実にすれやすいので優先して落とす。

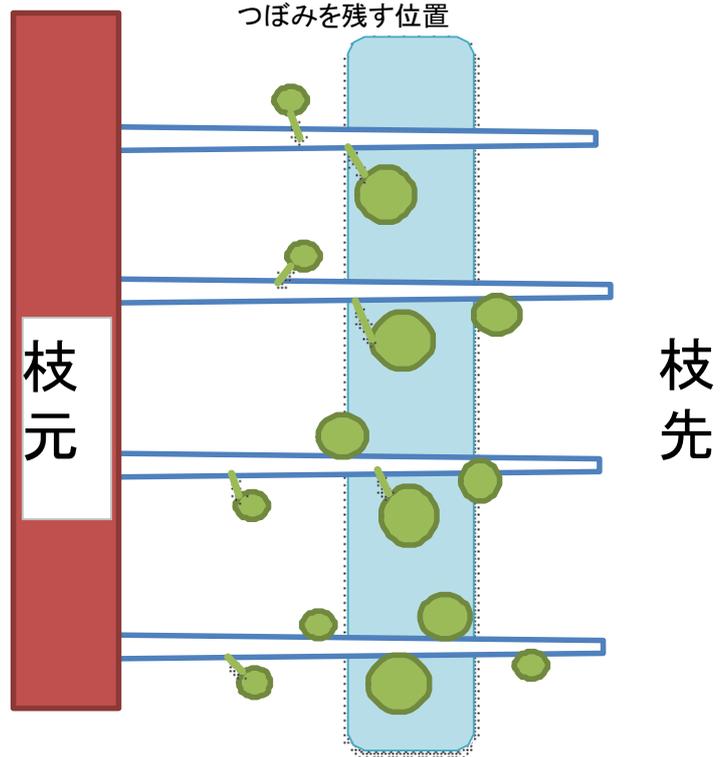
・先の果実:生育が遅れる場合がある。元と先では先を残す。

形の悪い果実を落とし、形の良い果実から位置を考慮して残す果実を決める。



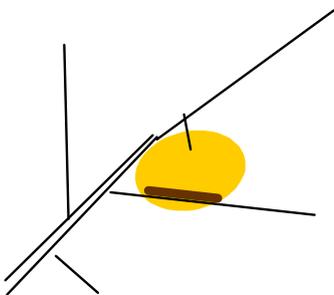
新梢の着果数と残す位置

- 2 個の場合  
先の果実優先
- 3 個の場合  
真ん中の果実優先  
だめな場合先端
- 4 個場合  
先から 2 つ目を優先  
だめな場合隣
- 5 個の場合  
真ん中優先  
だめな場合一つ先

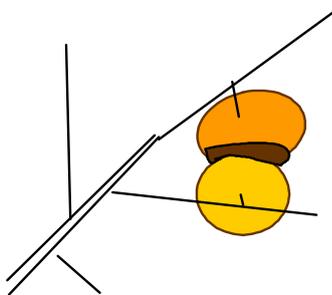


エ つぼみの位置と方向の留意点

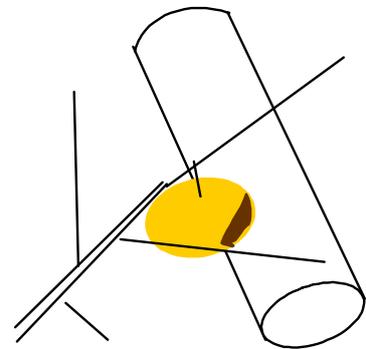
- 果実が肥大すると 8 cm 位になるので、肥大したときを予想し、以下のものに注意する。



① 枝に挟まらないもの  
(基部のつぼみは挟まりやすい。向きにも注意)



② 果実どうしがぶつからないもの (内向き同士はぶつかりやすい)



③ 枝にこすれないもの  
(位置、向きに注意)

オ その他

- 着果が多い場合、葉が 4 枚以下の枝のつぼみは取り除く。

### 3 新梢管理

#### 不定芽（徒長枝）管理

新しい枝は前年の枝（母枝）の芽から伸びるが（定芽）枝の切り口など芽が無いところから芽ができ、枝が伸びる。（不定芽）。

この不定芽は上に立ち上がりやすく、長くなりやすい。（徒長枝）また、日陰を作り、枝や果実の充実を不良にしたり、薬剤のかかりを悪くする。

一方、不定芽は、枝を更新するための宝で将来果実を生産する準備枝として、また、骨格枝の日焼け防止として活用できる。

枝同士重ならないように注意しつつ、なるべく残せるものは残す。



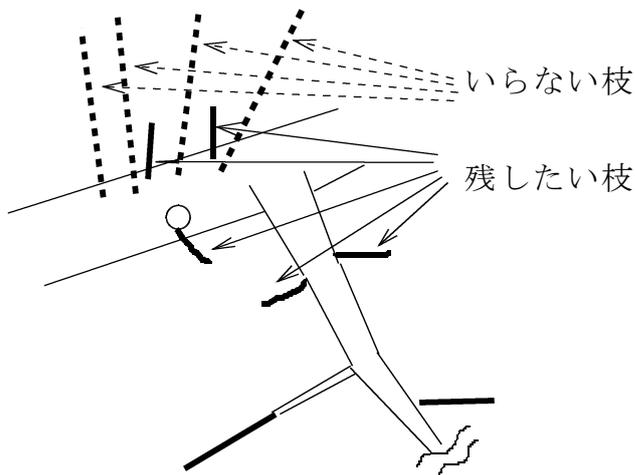
#### (1) 必要な不定芽

基本的には横向きからやや下向きの枝

- ・骨格から発生した横向きから下向きの不定芽（側枝更新の準備）
- ・古い側枝から発生した横向きから下向きの不定芽（側枝更新、空間活用）

上向きでも必要な場合もある

- ・骨格枝から発生した短い不定芽（日焼け防止）
- ・枝のないところから発生した枝（上向きの枝も必要。冬に切れば元から横向きが発生する可能性がある。枝を絶やさないように残す）



### 4 防除

(1) 開花直前防除のタイミングが重要（生育情報に注意し、日々観察）

- ・開花が少し見られたら防除する。
- ・その後は梅雨が明けるまで散布間隔と散布むらに注意

(2) 散布は葉裏から！部分的に病気が出る場合は散布むらに注意